

令和2年度病害虫発生予察情報 特殊報 第1号

令和2年5月29日
広島県西部農業技術指導所

1 病害虫名 スモモミハバチ (仮称)

MonoceIllicampa pruni

2 発生物名 スモモ (品種名: サマービュート)

3 特殊報の内容

広島県における初発生

4 発生経過

(1) 発生確認年月日 令和2年5月1日

(2) 発生地域 廿日市市

(3) 確認の経緯

広島県廿日市市内で、スモモを作付けした農園(7.5a)において、令和2年4月中旬頃から幼果の落果が確認された。被害株は、園全体に渡り、幼果に小さな侵入痕が見られた(図1)。ただし、葉は健全であった。

落果した幼果から侵入痕を確認し、幼果の中から脱出した幼虫を確認した(図2)。幼虫を採取し、神戸植物防疫所に同定依頼をしたところ、遺伝子診断により本県未発生のスモモミハバチ(仮称) (*MonoceIllicampa pruni*) と判明した。

(4) 他県での発生状況等

国内では、山口県で初めて確認され令和2年3月16日に特殊報が発表されている。

令和2年(2020年)3月16日 山口県病害虫防除所 令和元年度

病害虫発生予察特殊報 第3号

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/1/2/1/12153c80a5926e249528a77050f7d498.pdf>

5 本害虫の特性(山口県特殊報より)

本虫は、幼虫が幼果内部を食害する。糞は果実内部に溜まり、外へは排出されない。

被害果を割ると、内部の空洞に幼虫と比較的乾燥した細粒状の糞が見られる。被害果径は大きくとも1cm程度と小さく、5月上中旬には正常果と生育に大きな差が出るため、見分けることができる。また、被害果表面には幼虫の侵入孔と思われる小さな穴が認められる。被害果は無防除園に多く見られ、多い場合は被害果率がほぼ100%に至ることもある。

形態は、老齢幼虫は体長10mm程度で全体的に白色で、腹脚は退化してほぼ突起状となる。

成虫の体長は6mm程度と小型である。体色は全体的に黒色であり、翅も暗色である。

生態については、寄主はスモモのみで、年に1回発生する。中国では開花初期に一斉に羽化し、幼果のがくや花托の表皮に産卵することが知られる。孵化した幼虫は果実内部に食入し、仁を食べて内部に糞を蓄積する。近縁のナシミハバチと異なり、複数の果実を渡り歩いて食害することはなく、幼虫の成育は1つの果実内部で完結する。約30日後に果実に穴を開けて脱出し、土中で土繭を作って夏、秋を経過し翌春に蛹化する。分布は中国及び韓国との報告がある。

6 防除対策

令和2年3月現在，本虫に対する農薬登録はない。

※慣行防除を実施している県内の園地では被害果の発生及び報告を確認していない。



図1 被害幼果と侵入痕の状態

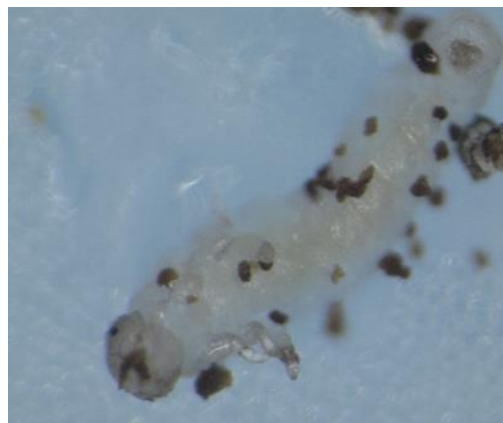


図2 果実の中から出てきた幼虫

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所（植物防疫チーム）（〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話082-420-9662）
広島県立総合技術研究所 農業技術センター果樹研究部

（〒739-2402 東広島市安芸津町三津 2835 電話0846-45-5471）

農林水産局農業技術課（〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話082-513-3559）

○病害虫発生予察情報は，広島県ホームページで閲覧できます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>